

# FORUM

Vol.45

大阪府立大学  
高等教育開発センターニュース  
「フォーラム」

## 第45号

### CONTENTS

巻頭言 ..... 2

副学長（統括）・教育推進本部長  
高橋 哲也

コラム ..... 3

「学習・教育支援サイト」から  
「教育学習支援基盤 ていら・みす」へ  
高等教育開発センター長  
星野 聡孝

高等教育開発センター沿革 ..... 4

2021年度活動報告 ..... 6

編集後記 ..... 8

# 巻頭言

● 副学長（統括）・教育推進本部長

高橋 哲也

TETSUYA TAKAHASHI



高橋 哲也

TETSUYA TAKAHASHI

1962年生まれ。1989年3月京都大学大学院理学研究科博士後期課程（数学専攻）中途退学、1991年6月学位取得（京都大学理学博士）。1989年4月より大阪府立大学総合科学部助手。講師、助教授を経て2005年4月より総合教育研究機構教授。2009年より学生センター副センター長、2011年より副学長・高等教育推進機構長、2013年より学長補佐、2017年より現在まで副学長・教育推進本部長。

## FORUM最終号に寄せて

この高等教育開発センターニュース「FORUM」も今回が最終号となります。2005年、府立の3大学が統合し、同時に法人化して公立大学法人大阪府立大学ができるのと同時に高等教育開発センター（以下、センター）も発足し、最初のFORUMは2005年8月に刊行されています。この創刊号に「FDって何だろう」というタイトルで書いたコラムで、「FDの定義については人によって多少の違いがあるようです。大阪府立大学では、「大学の教育を良くするための組織的な取り組み」と定義したいと思います。したがって、カリキュラムの整備、学生の履修指導、授業時間外の学習指導といった直接的なものだけではなく、図書館の自習室のスペースを拡充してTAを配置するといった学習環境の整備も含まれます。」と本学でのFD活動を定義しています。当時は、FDというと授業改善だけを指すことが多かったので取って代わってこのように書いたと記憶しています。このあと、授業改善の部分に狭義のFD、教育全般に関する改善を広義のFDと呼んだりもしました。2005年から現在まで大学教育に求められることも変わってきたのでその変化も含めて、本学のFD活動を振り返ってみます。

本学の全学的なFDはセンターが企画を考えて、全学委員会である教育改革専門委員会で議論して実施するという形を取りました。2005年からこの委員会で長時間の実質的な議論を行い、授業アンケート、授業参観、学生調査、シラバス作成の手引き、GPAの分析、成績評価ガイドラインといったFDのツールを作っていくのが2010年ぐらいまで続いていたと

思います。この間、国の高等教育政策は2008年に出された中教審答申「学士課程教育の構築」において「学士力」という学士課程で身につけるべき能力が例示され、学位授与の方針（ディプロマポリシー、以下、DP）がこの「学士力」に沿って各大学で策定されていきました。この答申ではDPを含む3ポリシー（カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）策定が提案されていましたが、その後、2017年4月の学校教育法施行規則改正で3ポリシーの策定・公表が義務づけられました。DPIに掲げる学習成果を学生が達成するようにカリキュラムを構成し、実際にどのように身につけているかをデータで示していくことが求められるようになったのですが、これが難しく各大学が試行錯誤を重ねている状況です。大阪府立大学はこの状況に対応するために、学生調査やe-ポートフォリオを整備してきて学習成果についてのデータ収集に努めてきて、この辺りがAP事業（大学教育再生加速プログラム）にも繋がりました。学習成果の可視化は一定進んでいると言えますが、DPを本当に達成しているかが成績評価結果（例えば、GPA）から分かるかという点ではまだ課題があります。学習成果をどう測るかという点については、授業での成績評価に戻ってくるので、FDは結局、授業に戻ってきます。

これまで本学が行ってきたFD活動は当然大阪公立大学に引き継がれていきます。学生をどう育ててその結果をどう示すかについて、引き続き皆さんと一緒に考えていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

# 「学習・教育支援サイト」から 「教育学習支援基盤 ていら・みす」へ

本学のポートフォリオシステムである「学習・教育支援サイト（ポートフォリオ）」を立ち上げたのは、今から10年前。Web上で実施していた授業アンケートの回答率が年々低下していく中で、教員、そして、何よりも学生自身の役に立つような新たな仕組みが作れないかと模索する中から、本学のポートフォリオシステムは生まれました。

その核として据えたのが、受講科目毎に学生が半期末に行う学修自己評価「授業ふり返し」です。これに、半期毎の学習目標設定と半期全体のふり返しを組み合わせることで、学生の学習自己改善を定期的に促す仕組みを整えました。また、学修自己評価の集計データは、教員が自身の授業をふり返るための資料の一つとして蓄積され、教員にとってのポートフォリオともなるように作られています。

運用開始から5年後のシステム更新では、利便性向上のための改修と運用見直しを行い、その後、システム利用率は、順調に向上していきました。また、本システムで集められたデータは、本学における学生の学びのプロセスの可視化や学修成果の可視化などに役立てられています。そして、4月より開学する大阪公立大学においても本取り組みを継続すべく、本学のシステムをベースとした新しいポートフォリオシステムを開発し、2022年3月より供用を開始する予定です。

新システムは、一体的に運用している授業支援システム・出席管理システムと併せて、本学、大阪公立大学、そして大阪市立大学の3大学で共通に利用するシステムとなります。また、機能面では、従来の機能を引き継ぎつつ、あらたな機能がいくつか追加されています。以下、主要な3つの追加機能について簡単に紹介いたします。

〔English ポートフォリオ機能〕 大阪市立大学で導入された English ポートフォリオを設計し直し、新システムに組み込んでいます。英語学習の計画立案や、学修成果の蓄積などを通して、自律的に英語学習を進めることができるようになっていきます。

〔ショーケースポートフォリオ機能〕 学修成果物の蓄積を通して、学生自身に学びをふり返る機会を提供したり、登録・蓄積された成果物から学生の学修履歴や成果を教員が把握したりできるようになっています。また、教育成果物の蓄積ができる教員向けのショーケースも提供予定です。

〔Web クリッカー機能〕 授業単位で利用できる簡易クリッカーです。選択式／記述式／描画式の回答を授業内で簡単に集めることができるため、アクティブラーニング型授業のツールの1つとして活用することができます。

これまでも、単なるポートフォリオシステムに留まらない、学習と教育を支援する様々な機能を併せ持ったシステムではありましたが、新システムは、更に機能が加わり、日々の学習・教育活動を支えるものとなっています。そのため、名称も、「教育学習支援基盤 ていら・みす」へと変更することにしました。「ていら・みす」という愛称は、ティーチングとラーニングをみす（「見せる」の古語）、に由来しています。その愛称とともに、新システムをご愛用、ご活用いただければ幸いです。



星野 聡孝 HOSHINO AKITAKA

高等教育開発センター長

1966年生まれ。京都大学大学院理学研究科博士後期課程研究指導認定退学。有機超薄膜の界面構造研究により学位取得(博士(理学))。1995年より京都大学大学院助手。2005年より大阪府立大学総合教育研究機構(現高等教育推進機構)助教授を経て、2008年より教授(物理学分野)。2016年より高等教育開発センター長、2020年より学長補佐(教育担当)。

# 高等教育開発センター沿革

	2005 (H17)	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)
FDセミナー等	3大学が統合し、全学的なFD活動推進のため、高等教育開発センター設置。 「FORUM」誌創刊号発行。		B3棟(教育棟)が竣工し、2階にセンター事務室開室。  FDヒアリング実施。			学内教職員向けニュースメール配信開始。	学生FD懇話会「白熱教室 in 大阪府立大学」。	学生FDスタッフ活動開始。
	新任教員研修、センター主催の最初のFDセミナー実施。	第1回FDワークショップ(教員参加型研修会)。 初年次教育のあり方を検討するプロジェクトチーム発足。		FDに特化した「新任教員FD研修」実施開始。 総合教育研究棟竣工記念シンポジウム。 FDワークショップ「大学初年次の基礎ゼミナール科目の設計」。		教育改革シンポジウム「学生と共に考える府大の教育」。	FDワークショップ「初年次ゼミの始まりを前に一書き上げたシラバスからもう一度考える」。  初年次ゼミナールの試行。	「学習・教育支援サイト」説明会。  初年次ゼミナール実施。
授業アンケート・ポートフォリオ	後期より「授業アンケート」を開始し、結果を教員個人へフィードバック。				授業アンケートの今後のあり方について検討。  「大学院教育アンケート」「教育全般に関するアンケート」実施。	授業アンケートに代わる本学独自の「eポートフォリオ」の仕様検討、システム構築。		eポートフォリオ「学習・教育支援サイト」の運用開始。
学生調査・教学IR			2年生・3年生を対象に学生調査「JCSS(Japan College Student Survey)」実施。		同志社大学・北海道大学・甲南大学と4大学で「1年生調査」開始(以降毎年実施)。		「上級生調査年」(3年生対象)、「卒業予定者アンケート」「修了予定者アンケート」実施。	「大学IRコンソーシアム」設立(同志社大学・北海道大学・大阪府立大学・甲南大学他)。
採択事業						平成21年度文部科学省大学連携GPに「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出—国公立4大学IRネットワーク」採択(代表校:同志社大学)。		平成24年度文部科学省IRネットワーク(北海道大学)。
関連事項	大阪府立大学(旧)、大阪女子大学、大阪府立看護大学の統合・再編により、大阪府立大学開学。 GPA制度、CAP制度導入。		相互授業参観制度(ピアレビュー)の導入。	関西地区FD連絡協議会に幹事校として参画し、情報支援ワーキンググループを担当(2020年度閉会)。	大学改革支援・学位授与機構による大学機関別認証評価を受審。	「ICTアクションプラン検討委員会」設置。 Moodle試行運用。	高等教育推進機構を設置。 新・教務学生システムの運用開始。 文部科学省「テニュアトラック普及・定着事業」採択。  Moodle本運用開始。	学域制の導入(7学部から4学域へ再編)。
	高等教育開発センター長 宮本勝浩教授			高等教育開発センター長 奥野武俊教授	高等教育開発センター長 山口義久教授		高等教育開発センター長 新井隆景教授	
	高等教育開発センター主任 高橋哲也教授			高等教育開発センター主任 星野聡孝教授			高等教育開発センター主任代行 水鳥能伸教授	高等教育開発センター主任代行 水鳥能伸教授
	南 努学長				奥野武俊学長			

年度ごとに主な出来事を抜粋しています。

2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)
ヒアリング		ラーニング・ コモンズにコ モンズ TA を 配置。						
				「授業デザイン 研修Ⅰ」試 行 実施。  「工学 FD セミ ナー」実施協 力。以降毎年 開催。	「授業デザイン 研修Ⅱ」試 行 実施。	テニュアトラッ ク教員の教育系 必須研修として 「授業デザイン 研修Ⅰ・Ⅱ」を 開始(年4回)。	授業支援システ ムに「授業改善 に役立つコンテン ツ集」を掲載。  アクセスセンタ ー共催「FD・S D 研修障がい のある学生を支 援するための全 学的組織体制」。	オンラインで 各種 FD セミ ナー実施。
				AP 事業の一環で「アクティブラーニングの普及および学修成果の可視化」を推進する FD ワークショップ、FD セミナー、SD ワークショップ、授業実践報告、シンポジウム等を実施。				
				高等教育開発 センターと九 州工業大学学 習教育セン ターによる「教 育の質保証の 推進に関する 協定」を締結。	「e ポートフォ リオによる学 修成果の可視 化コンソーシ アム」に加盟 し、運営に参 画。		新大学 e ポートフォ リオ開発、および、 DX 事業にて、追加 機能開発。	
	「卒業生調査」 実施開始。	「修了生調査」 実施開始。  学生調査の結果を学類へ フィードバック開始。	「大学 IR コン ソーシアム」 に運営校とし て参画。	「一年生調査」 の結果をポー トフォリオシ ステムで学生 個人へフィー ドバック開始。	「一年生調査」 に加え、「上級 生調査」の結果を学生個人 へフィード バック開始。			「一年生調査」 「上級生調査」 「卒業予定者ア ンケート」「修 了予定者アン ケート」「卒業 生調査」「修了 生調査」全 6 調査を実施。
							令和 2 年度文部科学省「デ ジタルを活用した大学・高 専教育高度化プラン」事業 に「統合的学習・教育支援 プラットフォームを核とし た自律的学習者育成と教育 高度化支援」(DX) 採択。	
								平成 26 年度文部科学省「大学教育再生加速プログラム」(AP) 採択(複合型)。
								令和元年度文部科学省「持続的な産学共同人材育成シス テム構築事業(中核拠点)」に「創造と変革を先導する 産学循環型人材育成システム」採択(代表校:東北大学)。
	学生間で演習問 題を作成する共 同知識構築シ ステム「meaQs」 開発。 AP 事業プロ ジェクト教員と してセンター所 員に畑野快特認 助教が着任(現 准教授)。		大学改革支援・ 学位授与機構 による大学機 関別認証評価 を受審。		理学類の新設。	公立大学法人 大阪の設立。	コロナ禍によ るオンライン 授業実施のた め、オンライン 授業推進 チーム発足。	大阪府立大学 としての最後 の学域生が入 学。
授			高等教育開発センター長 星野聡孝教授					
			高等教育開発センター主任 深野政之准教授					
			辻 洋学長					辰巳砂昌弘学長

# 高等教育開発センター

## 2021年度活動報告

### セミナー・研修会等の実施

#### 高等教育開発センター主催セミナー・研修会等

セミナー・研修会(いずれもオンライン開催)	内 容	年 月 日
新任教員 FD研修	「授業を育てる」(開催日: 2021/4/2) 「授業における ICT の活用について」(オンデマンド) 「FDに関する調査」(オンデマンド) 「データから見る府大生の特徴」(オンデマンド)	2021/4/2
Zoom活用講座	「基本編」「応用編」 講師: 片山 旭氏(ZVC Japan株式会社) 司会: 畑野 快(高等教育推進機構 准教授)	2021/5/10
「授業デザイン研修Ⅰ」 共催: 大阪市立大学 大学教育研究センター、 全学FD委員会	・ミニ講義1「授業の目的と達成目標」畑野 快(高等教育推進機構 准教授) ・ミニ講義2「アクティブ・ラーニング」畑野 快(高等教育推進機構 准教授) ・ミニ講義3「授業のフレームワークを作る」星野 聡孝(高等教育開発センター長・教授) ・ワーク「ミニ授業の準備」「ミニ授業」	1回目 2021/6/7 2回目 2021/12/3
「授業デザイン研修Ⅱ」 共催: 大阪市立大学 大学教育研究センター、 全学FD委員会	・ミニ講義1「授業科目の目的と達成目標」畑野 快(高等教育推進機構 准教授) ・ミニ講義2「授業計画」星野 聡孝(高等教育開発センター長・教授) ・ミニ講義3「成績評価」畑野 快(高等教育推進機構 准教授) ・ワーク、発表	1回目 2021/11/5
FD・SD研修 共同主催: アクセスセンター	「学びのユニバーサルデザインに基づく授業設計～自分の学びを舵取りする学生を～」 「UDL 学びのユニバーサルデザインに基づく授業設計」 講師: バーンズ 亀山 静子氏(ニューヨーク州立公認スクールサイコロジスト) 「実践例」 講師: 川俣 智路氏(北海道教育大学 准教授) 司会: 畑野 快(高等教育推進機構 准教授)	2021/11/18

#### 高等教育開発センター共催セミナー・研修会等

セミナー・研修会(いずれもオンライン開催)	内 容	年 月 日
内部質保証スタートアップ 支援事業成果報告会 共催: 教育戦略室	趣旨説明 高橋 哲也(教育推進本部長 副学長) 「内部質保証の運用を支援する GPS-Academicについて」 藤井 公雄氏(ベネッセiキャリア) 「応用生命科学類」 東條 元昭(生命環境科学域・生命環境科学研究科 教授) 「全国(理工学部系統)と比較したときの応用生命科学類3年生結果と改善のポイントについて」 藤井 公雄氏(ベネッセiキャリア) 司会: 畑野 快(高等教育推進機構 准教授)	2021/7/1
大阪市立大学 全学FD・SD事業 第29回教育改革シンポジウム 主催: 大阪市立大学 大学教育研究センター、 教育開発支援室(OCUラーニングセンター) 共催: 大阪市立大学 全学共通教育教務委員会、 全学FD委員会、全学SD委員会	『公立総合大学としての役割と教育のあり方について —新大学大阪公立大学で、どのような人間を、どのように育てるか—』 「歴史的観点から公立大学の役割と教育のあり方を考える」 吉川 卓治氏(名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 教授) 「新大学でどのような人間をどのように育てるか」 辰巳 砂 昌弘(大阪府立大学 学長)	2021/8/31
大阪市立大学 全学FD・SD事業 第19回FD研究会 主催: 大阪市立大学 大学教育研究センター、 教育開発支援室(OCUラーニングセンター) 共催: 大阪市立大学 全学共通教育教務委員会、 全学FD委員会、全学SD委員会	『大阪市立大学の教育改善・内部質保証に向けた取組の総括と今後への展望』 「総合大学での学修成果評価」 橋本 文彦(大阪市立大学 副学長) 「全学・学部横断での教育プログラムの企画・運営」 鈴木 洋太郎(大阪市立大学 副学長) 「全学・部局の教育改善・FDの歩みと今後の展望」 飯吉 弘子(大阪市立大学 学長特別補佐・大学教育研究センター副所長)	2021/8/31
全学FDセミナー 主催: 工学域・工学研究科 教育運営委員会	『THEランキングを通して授業カリキュラム、授業実践を振り返る』 「学生調査からみた 本学の教育充実度」 畑野 快(高等教育推進機構 准教授) 「国際教養大学の挑戦」 講師: 熊谷 嘉隆氏(国際教養大学 副学長) 司会: 高橋 雅英(学長補佐(グローバル課題、大学ランキング担当))	2021/11/1
大阪府立大学工業高等専門学校FDセミナー 主催: 府大高等AL研究会	「作成した動画を反転授業で活用する」 講師: 畑野 快(高等教育推進機構 准教授)	2021/12/2
法人職員ステップアップ研修・ SDワークショップ 共催: 人事課	「わかりやすい企画書をつくる」 講師: 竹中 喜一氏(愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 講師) 司会: 畑野 快(高等教育推進機構 准教授)	2021/12/8

### 印刷物、メール発行

名 称	内 容	発 行 月
「フォーラム」第43号	巻頭言、コラム、授業報告、FDセミナー報告、研修報告、ICTとDX	2021/ 8
「フォーラム」第44号	巻頭言、コラム、授業報告、研修報告、FDセミナー報告	2021/12
「フォーラム」第45号	巻頭言、コラム、高等教育開発センター沿革、2021年度活動報告	2022/ 3
「ニュースメール」配信	センターの活動予定・報告、センター web サイトの紹介、FD・SD 関連研究会等のお知らせなど	全3回配信

## 学習・教育支援サイト（ポートフォリオ）の運用

学習と教育の継続的自己改善などを支援するための「学習・教育支援サイト（ポートフォリオ）」の運用を行っています。学域生には、本サイトで半期毎に「半期学習目標」「授業ふり返り」「半期ふり返り」を入力してもらい、また院生には「授業ふり返り」を授業アンケートとして回答してもらっています。本サイトは、学生の学習ポートフォリオとしての役割を担うだけでなく、授業担当教員による授業分析や学生アドバイザーによる学生指導に役立てられるようになっていきます。

大学統合を間近に控え、今年度は、学習・教育支援サイトの後継となる新ポートフォリオシステムの構築を行いました。このシステムは、本学のシステムをベースとしつつ、大阪市立大学のシステムが持つ機能（Englishポートフォリオ、ショーケースポートフォリオ）を設計し直して組み込んだものとなっています。新年度からは、授業支援システム（Moodle）や出席管理システムとともに、本学だけでなく、統合後の新大学および大阪市立大学の3大学で利用される予定です。

## 教学IRへの取組・学生調査の実施

### ・大学IRコンソーシアム

「大学IRコンソーシアム」(<https://irnw.jp/>)は、2009年度から2011年度まで採択された文部科学省「戦略的大学連携支援プログラムー相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出ー国公立4大学IRネットワーク」、2012年度から2016年度まで採択された大学間連携共同教育推進事業「教学評価体制（IRネットワーク）による学士課程教育の質保証（北海道大学・お茶の水女子大学・琉球大学・大阪府立大学・玉川大学・同志社大学・関西学院大学・甲南大学）」から発展、事業承継し、2021年12月現在、正会員61大学、賛助会員6社が参加しています。学生調査・卒業生調査の実施等の取組みを継続的に発展させ、わが国の高等教育機関での教学IRの基礎データの提供と分析を行うとともに質保証のための教学評価コミュニティを形成しています。

2018年4月「一般社団法人大学IRコンソーシアム」として法人化。本学の高橋哲也副学長（統括）は法人化前の2016年4月から会長、法人化から2020年5月まで代表理事を務め、現在は理事に就任して2期目となりました。今年度も、「Excelによるアンケートデータの可視化」をテーマにした講演会など、計3回の会員向け講演会をオンライン開催し、会員校におけるIRの実践事例の共有・意見交換を行いました。また11月5日・6日には当法人、大正大学EM研究所および株式会社ベネッセコーポレーション文教総研によるIR合同シンポジウムおよび勉強会をオンライン開催しました。当法人のIRシステムでは学生調査データを登録し集計結果を公開していますが、卒業生調査データについても2018年度からの試行を経て、調査項目を確定、今年度より本格運用しており、大学教育と大学卒業後のキャリア形成の関連性を解明し、各大学のカリキュラム改革、教育組織改革に資する情報を収集・分析することが可能となりました。

### ・学生調査の実施

大学における教育の成果を測定することを目的として、学生調査を行い、学内の様々なデータと連携して分析し、質保証と教育の改善に結びつけることを目指しています。学生調査の結果（件数・集計）および、完成した分析報告書は、FDに関する全学委員会（教育改革専門委員会）で報告するとともに、センターのwebサイトに掲載しています（学内限定）。

今年度は、自己点検・評価および認証評価受審に向けて、大学IRコンソーシアムの共通調査である卒業生調査（7月～8月）、一年生調査・上級生調査（10月～1月）に加え、修了生調査（7月～8月）、卒業予定者アンケート・修了予定者アンケート（11月～3月）の6調査を実施しました（昨年同様、コロナ感染拡大予防の観点から、webにて実施）。

調査結果については教育改革専門委員会で報告し、学類ごとの集計結果を高等教育開発センターのwebサイトで学内向けに公開予定です。

## 「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」の取組

東北大学、熊本大学、大阪府立大学、立教大学および連携企業・団体による取り組み「創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム」が、令和元（2019）年度文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」に採択されました。国公立4大学が企業・団体と連携して、産学連携教育イノベーター育成コンソーシアムを設立し、実務家教員を育成する「産学連携教育イノベーター育成プログラム」を履修証明プログラムとして開発・実施しています。（事業期間：2019年度～2023年度）

実務家教員育成を育成する履修証明プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム」（代表校：東北大学）に、「アントレプレナーシップ教育力育成コース」を提供し、受講者22名が修了しました。2022年度からは、同コースを大阪公立大学の履修証明プログラムとして開講します。

## 「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」事業

文部科学省「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」事業にて昨年度末に申請・採択された「統合的学習・教育支援プラットフォームを核とした自律的学習者育成と教育高度化支援」の取り組みを本格的に推進しました。特に、センターでは、新ポートフォリオシステムの機能増強（webクリッカー機能およびショーケースポートフォリオ機能の拡張）によるアクティブラーニング型授業支援と自律的学習者育成支援の取り組み、および、これまでに蓄積された様々な教育データのAI分析の取り組みを進めました。

## 学生FDスタッフ活動

本学では、2012年10月より、教職員と協働で、教育改善について提案していただける学生を募集し、高等教育開発センターの下部組織である「学生教育改善室」のスタッフとして、教育改善活動（FD活動）を中心に様々な企画を立ち上げ実施しています。

今年度は、「レポート書き方企画（実際にレポートってどうやって書くの？/根拠となる情報を探して示そう!）」（6月開催/全学1・2年生対象）、「応用生命科学類課程相談会」（12月開催/応用生命科学類1年生対象）、「公認心理師座談会」（1月開催/環境システム科学類1年生・人間環境科学課程2年生以上対象）を実施しました。企画の目的と内容から、対象者を限定して実施することで、参加者に有意義で効果的な情報を提供することができました。

また、学内外に向けてより広く学生FD活動を発信するために、学生FDスタッフのOB・OGに学生FD活動を通して得られた経験をテーマにお話を伺い、本学のWebマガジン「MICHIE TAKE! PULS」へインタビュー記事を掲載しました。今年度から活動に参加した学生FDスタッフにとっても、先輩方の経験談から、今後の活動の在り方などを改めて見つめることができた、貴重な機会となりました。

さらに、大阪市立大学ラーニングセンターでTA、SAとして活動する学生と、互いの活動内容等について、情報と意見交換を行い、新大における活動に向けた取り組みを開始しました。

## 編集後記

「フォーラム」の最終号をお届けします。お忙しい中、御執筆をいただいた皆様に心より御礼申し上げます。私は高等教育開発センター設置2年目の2006年からスタッフの1人として関わってきました。白鷺門から入ってすぐ右手の建物(A1棟)の1階で少人数の会議をやっていた時代が懐かしく思い出されます。いまこうして高橋先生の巻頭言と星野先生のコラムを拝読し、また4~5頁の年表を眺めていますと、日常的にはあまり意識していなかったことでも、この17年間のセンターの活動が授業の理念と実践に決定的に大きな(プラスの)影響を及ぼしていることを実感します。個人的に最も深く関わってきたのは初年次ゼミナールでしょうか。まもなく大阪公立大学の開学。初年次ゼミもFDも飛躍のきっかけにしていきたいと夢を膨らませています。(谷口)

## 最終号にあたって

大阪府立大学の高等教育開発センター・ニュース「フォーラム」は、この第45号をもって最終号となります。「フォーラム」は、センターが発足した2005(平成17)年に創刊号を発刊して以来、本学のFD活動と本センターによる学生調査の分析等を報告してきました。

本誌は、学内全教職員に配布するとともに、関西圏の高校、そして全国の大学教育センター等へ送付しています。FD活動に関する学内の情報共有ツールとしてだけでなく、本学の教育活動をアピールする広報メディアとしての役割を意識し編集してきました。ご愛読いただいた皆様に感謝いたします。

2022年4月の大阪公立大学開学にあたり、本センターは、「高等教育研究開発センター」として、大阪公立大学の教育改善、学修支援活動の中心的な役割を担うこととなります。本誌の役割も形を変えて引き継がれます。

最後になりましたが、編集作業の多くを担っていただいた歴代の高等教育開発センター職員の方々に、この場を借りて改めて御礼を申し上げます。ありがとうございました。

(高等教育開発センター 副センター長 高根雅啓(編集委員長))

### 大阪府立大学 高等教育開発センター センターニュース 「フォーラム」

2022年3月24日発行

発行者 大阪府立大学  
高等教育推進機構 高等教育開発センター  
〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1  
<http://www.fd-center.osakafu-u.ac.jp/>

印刷所 くすの木印刷  
〒586-0081 大阪府河内長野市緑ヶ丘北町25-21

<編集委員> 星野 聡孝(センター長) 高根 雅啓(副センター長) 深野 政之(主任) 池田 華子 川添 充 小島 篤博  
高野 順平 高橋 哲也 谷口 栄一 畑野 快 林 利治 森岡 次郎

<事務担当> 古谷 智美 木下 祐吏 土谷 弘美